
ゼロの使い魔～舞い降りる転生者～

迅雷崩王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロの使い魔〜舞い降りる転生者〜

【Nコード】

N7769X

【作者名】

迅雷崩王

【あらすじ】

どこにでもいる普通の勉強も運動もそんなにできないごく普通の高校2年生赤峰夏は、下校中に轢かれそうな子をかばって死んでしまった、そして神に出会い転生のチャンスと世界で生き残るためのチート能力をくれた…注意原作崩壊が多々ありますので、苦手な方はバックを願います

第1話 転生者爆誕

俺は赤峰夏、どこにでもいる普通の高校生だ今はかつたるい学校が
終わり下校中、今日は帰りにFAIRYTAILのコミックとRE
BORNのコミックでも買って帰るか、速く信号変わらないかなあ…
そう思いながら周りを見回していた時男の子が引かれそうになって
いた…って

「危ない!!」

そう叫び俺は男の子を突き飛ばし歩道に上げたしかし…

「俺が逃げる余地はなさそうだな…はあ、俺の楽しみはこれで終わ
ったな」

そう思った瞬間目の前が真っ暗になり意識がなくなった…

「ここはどこだ…」

今俺がいるところは、何も無い、真っ白い空間
周りの特徴はなく誰もいない

しかし、わかつてることが一つあるそれは…

「俺は死んだんだよな…」

そう俺は死んだ、そしてここはたぶんあの世だと思う

「その通りだよ！君！！」

「誰だ…」

俺は声の下した方向を見てみるとかつこいいお兄さんが立っていた

「俺は神だ…」

「神様？」

「ああ、神だ」

「じゃあやつぱりここは死後の国か」

「いいえ、正確に言えばここは神の聖域、そしてあなたは選ばれし者だ」

「どういう意味ですか？」

「あなたは間違えて殺された訳です、よってあなたを能力付きで転生させます」

それは本当か！！

「じゃあ、FAIRYTAILの魔法全部とREBORNのリング

や、ボックスをください、あと波動は、全属性の波動もちで、ロストマジックの副作用は、なしにしてください、あと容姿はFAIRYTAILのナツと同じ姿にしてください」

まあ欲張り過ぎだが良いだろうし

「いいだろう、じゃあ転生後にボックスとボンゴリングを持った状態にしとくからな」

「ありがとうございます」

「では…この世に宿っている聖霊よこの者に新たな人生を歩ませたまえ!!」

そう神様が叫ぶと俺の体は光に消えて行った

第2話 使い魔にされし転生者

「宇宙の果ての何処かにいる私の下僕よ！神聖で美しく、そして強力な使い魔よ！私は心より求め、訴えるわ！我が導きに応えなさい！」

彼女はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール。

魔法学院の生徒だが、彼女は何故か系統魔法を満足に使う事が出来ずにいた結果、魔法成功率0割だった為に「ゼロ」と呼ばれ、「ゼロのルイズ」という不名誉な二つ名を付けられた。

そして、二年の春に行われる使い魔召喚の儀式が行われていた。

使い魔召喚の儀式とは、自分の系統を判断する為の大事な儀式でもあるのだ。

そこで気迫たつぷりの彼女が真剣に叫んだ。

そして爆発が起こり煙が晴れると…

「どこだ…ここは…」

そう煙が晴れると俺は立っていた

「あなた誰？どこの平民？」

「ちょっと黙れ…うるさい」

「なんですって！！」

そして俺とピンクの髪の子…記憶が正しければルイズの会話を聞いてみんなが笑い始めた

それにしても…

「（アイツ俺をゼロの使い魔の世界に転生させたのか…）」

「おいルイズ、サモン・サーヴァントで平民を呼び出してどうすんだよ？」

「つかさつそく平民に嘗められてるな。さすがゼロのルイズ」

「うるさーい！ーい！ー！」

「……………ッ！？耳イテエ」

さすがに近くで叫ばれると耳痛いな

「ミスタ・コルベール！もう一回召喚させて下さい！」

「それはダメだ、ミス・ヴァリエール」

「どうしてですか！？」

「決まりだよ。二年生に進級する際、君達は使い魔を召喚する。今やっている通りだ」

つまり…神の力を持つこの俺を召喚したって事か。って事はこのガキ、実はすげえ奴なのか！？

「それによつて現れた使い魔で今後の属性を固定し、それにより専門課程へと進むんだ。一度呼び出した使い魔は変更する事は出来ない。何故なら春の使い魔召喚は神聖な儀式だからだ。好むと好まざ

るにも拘らず、彼を使い魔にするしかない」

「でも、平民を使い魔にするなんて聞いた事がありません！」

「これは伝統なんだ、例外は認められない。」

「そんな…」

うわー、目に見えて落ち込んでるなこりゃ。

「さて、では儀式を続けなさい」

「えー、これと…？」

これって言いやがった！！俺のこと者扱いかよ！！

「そうだ。でないと、君は本当に退学になってしまいますぞ？」

「うつ…」

明らかに俺の能力知る前に落ち込んでやがる

「ねえ」

「何だ？」

「感謝しなさいよ、こんな貴族にこんなことしてもらえるなんて一生ないんだから」

「お、おう」

こいつの気迫はすげえな

「我が名はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール。五つの力を司るペンダゴン。この者に祝福を与え、私の使い魔となせ」

そうルイズが呪文を唱えるとルイズが俺に近づいてきて

「ん．．．」

「むぐっ!？」

キスされた、そっぴゃ、契約時って口づけがいるんだっけ…

「終わりました」

「おい急に何やってい」グっ!？体が…熱い…グアアアアアアアア!？」

「すぐ終わるから待ってなさいよ。使い魔のルーンが刻まれてるだけよ」

「刻むなンナモン!!」

「サモン・サーヴァントは何回も失敗したが、コントラクト・サーヴァントはきちんと出来たね」

そう先生？に言われてみんなに罵倒され三人きりになった

「あんた一体何者よ」

「俺は多数能力所持者だ」

「はぁ…こんなバカでどうしようもない妄想癖の平民が出てくるなんて、最悪だわ…」

「おい！？さり気なく馬鹿にしてるだろ！」

「アンタの様な平民が神に近い力を持つ名を名乗るなんて罰当たりにも程があるわよ！」

「はぁ？罰なんか当たるかよ、俺はマジで言ってるんだ！」

「呆れた、こんな頭の可哀想なのが来るなんて…」

「一度地獄を見るか？」

そういつて俺は腕に火竜の炎をともした

「なによそれ！！炎！？」

「これは竜が出す炎だ俺は滅竜魔導師^{ドラゴンスレイヤー}のナツだ！！」

「滅竜魔導師！？」

「俺の名前はナツ・ドラグニル、竜殺しの力を持った火竜^{サラマンダー}のナツだ
！！」

そう俺は名乗った、するとルイズはすごく驚いていた

第3話 能力説明をする転生者

「め、滅竜魔導師って、あんた、竜を殺してるの!？」

「いや、実際殺したことはないが俺の世界ではこの魔法はこう呼ばれていた」

「すげえーなナツさん」

「ナツでいいさ、それとルイズさん?これでもまだ信じられませんか?」

「まだよ、あと3個魔法を見せてくれたらいいわよ」

「3個か…いいよ見せてあげる、じゃあまず鉄竜剣」

そう俺が言つと俺の腕は鉄の剣になった

「次よ」

「次かなら…テイクオーバ…ビーストソウル!」

そういうと俺はエルフマンと同じ姿になった、それにしてもこれ扱いやすいな

「次で信じてあげる」

「じゃあ最後だね、まず変身させてよ」

「？良いわよ」

「じゃあ変身魔法！！天空の巫女に変身！！」

そう俺が叫ぶと妖精の尻尾に出てくるウェンディに変身した

「！？何よその魔法」

「まあ見ていてください、天竜の…咆哮！！」

そういつて上空に向けてブレスを吐いた

「分かったわ、信じてあげる」

「そう？ならありがとう」

そう会話した後は原作通りに進んだ
そしてルイズは授業に行った

「さて、才人、おきろ！」

「ん？何」

「起きろ、ルイズは学校の授業に行ったぞ」

「そうなのか、まあいいけど」

「じゃあ俺は修行するからな…《ガリツ》」

「何の音だ？」

「離れてろ…オペレーションX」

《了解しましたボス》

おし！音が鳴るし、コンタクトディスプレイも付けたし、これでX
BURNERが打てるな

ん？そうこうしてるうちにルイズが戻ってきたな、死ぬ気モード解
除と

そして原作通りにまたすみ部屋に行った

「で、あんたあとどんな魔法が使えるの？」

「そうだな、まず治癒魔法とか」

「治癒ねえ」

「氷の造形魔法とか」

「氷の造形！！それは結構すごいじゃない」

「鎧や剣を寸時に換装する魔法とか」

「瞬時に！！」

「すごいなナツさん」

「それはそうと才人、お前は何か使えないのか？」

「使える魔法なんてないよ」

「そうか…」

そう会話を交えると原作通りに進み、ルイズが着替え始めて、そのあと洗えと言われたから、時のアークで洗い立てにして見せた。そしてルイズが寝たころ術式で防音壁を張り才人と会話した。

「ところでナツさん」

「ナツでいい、で、なんだ」

「はい、その、明日から早く起きて修行を付けてくれませんか？」

「かまわないぞ」

「ありがとうございます！！それではおやすみなさい」

そういわれたあと俺も寝た

さて明日はギーシュとの決闘だ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7769x/>

ゼロの使い魔～舞い降りる転生者～

2011年11月13日00時13分発行